



## 『女性ホルモンと動脈硬化』



しもじ内科クリニック院長

下地 栄壮



女性は男性と比べて、狭心症や心筋梗塞などの動脈硬化性疾患が15～20年遅れて発症します。これは、女性は生理が順調にある期間は、卵巣から“エストロゲン”という女性ホルモンが産生されているからです。

エストロゲンは女性の骨、皮膚、脳、肝臓に大切な働きをしていますが、特に血管内では重要な働きをしています。エストロゲンが動脈硬化を抑制する働きは、血管に対する間接的な作用と直接的な作用が考えられています。

### <間接的な作用>

- LDL-C(悪玉コレステロール)低下作用：女性は50歳頃に閉経を迎えると、卵巣からのエストロゲン産生が止まるためLDL-Cが増加する
- 血管内でのLDL-Cの酸化抑制：LDL-Cが酸化すると血管内に蓄積しやすくなる

- HDL-C(善玉コレステロール)増加作用：血管壁に蓄積したコレステロールを引き抜く働きをするHDL-Cを増加させる
- 肥満抑制：特に内臓脂肪の抑制をする



### <直接的な作用>

- 血管内皮細胞での一酸化窒素(NO)産生増加：NOは血管を弛緩させ、血管の抵抗を減少させて血圧を下げる
- 血管平滑筋細胞の増殖を抑制：血管の中膜にある平滑筋細胞が血管内皮下で増殖するとプラークができ血管が狭くなる

## 【新型コロナワクチン3回目接種に対するお知らせ】

1月から当院でも3回目の新型コロナワクチン接種が始まりましたが、福岡市からの供給が極めて少量であり、1・2回目を当院で接種された方でも予約できない場合があります。1・2回目の際は、100～200人/週程度の方に接種出来ておりましたが、現在は福岡市の全てのクリニックに均等に1月12人/週、2月42人/週、3月42人/週の配給予定となっています。ご迷惑をお掛けして大変申し訳ございませんが、ご理解の程宜しくお願いいたします。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦3丁目2-49(福岡銀行美和台支店隣り)

TEL:092-605-6300